



くじら工房の利用者の皆さんの作品

しょうがいしゃが働くということ

省庁がしょうがいしゃ雇用率達成を偽装していたことが分かり批判されています、なぜこのようなことがおきるのでしょうか？その実態も理由も明らかではありません。雇用率目標は何のためにあるのでしょうか？働きたい、働ける、と思っているしょうがいしゃの願いに応えるための政策のはずですが、その声が受け止められた政策だったとは思えません。形だけの差別解消法、言葉だけの合理的配慮といわざるを得ません。形だけでも言葉だけでも、ないよりはあった方がいいという考え方もありますが、私たち福祉事業に携わる者はそうではありません。

法律がなくても規則がなくても、全ての人に人権があり、生きる権利があり、自分の人生を

選ぶ権利があり、それを日々の暮らしの中で実現していくために働くことが福祉事業だからです。しかし、それだけでは、なかなか世の中全体のものにならないからと、責任をもってやるべきこととして、国のトップ行政に義務が課せられたはずですが、つまり目標値は最低の義務だったわけですが、それすら守られないどころが偽装までして逃れるとは悪質極まりません。こんなことが許されるなんて恥ずかしい限りです。

こんな人たちが担う国で、私たちはよほどしっかりしないと、当事者に寄り添い、当事者の幸福につながる仕事はできません。仕事の本質を見失わないでいたいものです。

(理事長 遠藤良子)

生活介護事業所
くじら工房
Tel/Fax 042-843-3450



チラシ折り・値札などの受注作業、レギュラーワークのリサイクル（古紙回収）を、弱音もはかず、コツコツ、黙々ががんばりました。

コツコツ 頑張りました！

食の秋、スポーツの秋、芸術の秋、イベント満載の秋を迎え、過ごしやすくなりました。日本歴代最高気温を記録した極暑の中、秋の催し物の景品作り、



恒例の秋の日帰り旅行は、大月のリニアカー見学に出発し、シユタイナー学校の実習生2名も同行し、2グループに分かれて行ってきました。東京一名古屋間をなんと30分で結ぶリニアのあまりの速さ、臨場感に、カルチャーショックを隠せないようでした。

冬支度に向けて畑作業、刺繍入り布巾等の生産品作りに、引き続き盛りだくさん。苦あれば楽あり、楽あれば苦ありのくじら工房です。（秋山）

居宅介護等事業・訪問介護事業

くじらハウス

Tel 042-505-7034
Fax 042-505-7035



お砂糖ひとさじ

先日、ミュージカル『メリー・ポピンズ』を観てきました。メリーの不思議な力で周りの人たちがハッピーになっていく物語ですが、その魔法のひとつは「お砂糖ひとさじで苦いお薬もおいしく飲め

る」。つらいことがあっても、ちょっとした工夫や物の見方で良い方へ進んでいくし、楽しめる！というものでした。

日々の生活の中でも、いろいろなことがあります。私はメリー・ポピンズのような魔法は使えないけれど、その人にとっての「お砂糖ひとさじ」を探すお手伝いが出来たらいいなあなんて思った休日でした。

そしてあっという間の一年が過ぎようとしていて来年には、またまたくじらハウスの引っ越しが控えています。工事も着々と進み、新しい建物が建っていくのを見るとワクワクします。新しいくじらハウスへもぜひ皆さん遊びに来てくださいね！（坂野）

65歳問題について

今まで、重度訪問介護など、しょうがい福祉サービスを使って自立生活をされてきた方が、満65歳を迎えると、介護保険制度の受給者になります。そして、共通する在宅サービス等については、今までのしょうがい福祉サービスから変わって、介護保険サービスの給付を利用することとなります。しかし、ガイドヘルプサービス等介護保険制度では対応できない部分や、固有のニーズに基づくサービスについては、引き続きしょうがい福祉サービスを利用します。ど

ちらの制度を使われるにしても、今までの生活が大きく変化することはありません。また、車椅子や介護用ベッドなどの福祉機器や、様々な日常生活用具などは、介護保険制度利用の方が、レンタル等もあり選択の幅はむしろ広がるとも言えます。

しょうがいをお持ちの方が年齢を重ねる中での、新たなニーズに対応していくために、関係機関とよくご相談しながら、制度を上手に使うことで環境を整え、これからも充実した生活を送って頂きたいと思えます。（稲川）

さきざきの会を始めて3年

先日、用事があった板橋駅で降り、西巣鴨に向かって歩いた。駅の近くにはコンビニがあったが、その先の道は、いつから建っているのだろうと思わず立ち止まりたくなるような小さなお店やら何やらが幾つも続く。大田区大森育ちのわたしが昭和40年代に見た建物の感じとは違う。もっと古いのではないか。こんな地域も残っているのだなあと思わず面白さと不思議さを感じながら歩いていたら、ふっと、おかしい感覚に陥った。——「自分は、ずっと、このように歩いてきた。これからも、ずっと、このように歩いていこう」。時空を超えた《永遠》の中に迷い込んだような感覚。更に数十メートル歩いて再びコンビニと信号が見え、目的地をスマホのGoogleマップで確認していたときには消えていたけれど、束の間、心が深く落ち着く、贈り物のような時間だった。

*

この頃思うのは、「結局ひとは、自分のしよとと思うことしか、しない」ということ。ある相談員の本にそんなことが書かれていて、とても納得した。自分自身もそうである。「何をしたらいいかわからない」ときは、「何をしたらいいかわからないということ、いまはしたい」のだ。あるいは、「窮すれば即ち変じ、変ずれば即ち通ず」。とことん行き詰まれば、その先に道が開ける。考え過ぎて自分がどんどん苦しくなっているときは、「即ち変じ」を信じて待つ心持ちになると、少し楽になる。

*

エプシロンで、いわゆる“親なきあと”問題を考える「さきざきの会」を行っているとは何回か前のお

たよりでご紹介したが、勝手ながら次回はお休みをお願いした。一息ついてから次の展開を考えようと思っている。年に4回、始めてから丸3年、12回開催した。いつも20名以上の参加があり、福祉会館の和室で座椅子を並べて、ずいぶん色々な語らいがあった。知識や情報を得ることに重きを置くのではなく、「気になってはいるけれど一人では取り組みにくいことについて、皆でわいわいと話す場を定期的に開く」ことが主目的。そういう会をしませんかと声をかけてくださった方のご意向でもあるし、エプシロンとしても、当事者同士が話をする会のサポートならば是非お手伝いしようと思った。この場合の当事者とは、“親なきあと”問題を自分のこととしてリアルに考える人たち。「さきざきの会」では、「概ね65歳以上の、エプシロン利用者の親御さん」たちからお誘いを始めた。お誘いの言葉は、次の二つ。①「親なきあと」のために、何をしたらいいか学び合ひましょう。②「しょうがいのある子と共に老いる」という体験を分かち合ひましょう。

しかし、やがて思ったのは、障害福祉サービスを提供する自分たちも、別の立場ではあるが、この問題の当事者であるということだ。親御さんの加齢による変化や病気によって自分たちが求められる支援の質や量が変わる。そのニーズ変化にどう応えるのか。いきなり金銭管理問題が課題となることはおそらく少なく、その前に、まず支援のニーズ変化がある。かいゆうの理念は、「しょうがいのある人が、自分の暮らしたい地域で、生涯にわたって、自分らしく生き、社会参加することを支援します」であるのだから、避けて通る訳にはいかない。

そんなことを考えている内に、当事者＝親御さんの話を聴いているばかりでは居心地の悪さが溜まってきたのでお休みをお願いしたのが正直なところ。実際には、親御さんに「親の介護」が生じ、そのために支援ニーズ変化が起きることも多い。少しお時間をいただいて、課題の整理をしたい。(白川)

放課後等デイサービス

くじらっこ

Tel/Fax 042-505-4661



おすすめ！

くじらっこでは、8月に飯能市のキャンプ場へBQ&川遊びを行いました。今年度は、初参加の低

学年の児童が多く、思い思いに川で遊んだり、BBQを食べたりして楽しみました。そのような暑い夏(今年は例年にない暑さでした…)が過ぎ、街のイチョウも色付き、徐々に秋から冬へと近づいているように思えます。

私の住んでいる青梅では、休日になると人々が都心から来られます。ハイキングをされる方、紅葉を見に行かれる方が、多く電車に乗っていたりします。都心からでも時間もそんなにかからずに来れるのでお勧めです。(市川)

Group Home

はじめの一步ハウス

地域の中で

一步ハウスは年明け早々に富士見台に引っ越します。ここ国立市東での生活も残りわずかになってきました。16年という期間、東の住宅街のど真ん中でやってきて、本当に近隣の皆さまには感謝の気持ちしかありません。地域の中で暮らしていくということを掲げてやってきた一步ハウスにとって、ここ東は理想の場所でした。本当にありがとうございました。



そして今度移る富士見台でもこういった関係性が築けるように、近隣に愛されるグループホームを目指して入居者のみんなと力を合わせて頑張ります！富士見台の皆さん、よろしくお願ひします！

さあ、まずは、なにはともあれ引っ越しの荷造り。色々なものを段ボール箱に詰めていきます。一步ハウスを作った親御さんたちと前理事長の松田さん、今まで関わってくれた、かいゆうの職員、アルバイトさん、ボランティアさん全ての皆さんの想いは絶対に忘れないように真っ先に段ボールにつめて富士見台に持って行かないと、と思いながらの作業です。(中村)

来歩ハウス

半年前の自分

一年前、足掛け五年でたどり着いた社会福祉実習でのこと、私は就労継続支援A型事業所で、従業員と呼ばれる利用者の中に混ざって洗濯業務に取り組んでいた。「初めの一週間は、従業員と同じ動きをしてどのように感じるかをテーマにしてほしい」実習先の施設長の言葉のままに、一緒に仕事をしよう、とだけ考えていればいいはずなのに、私は、「ソーシャルワークの視点をもって分析しなければ、実習はたった一ヶ月しかない」そんな思いが先立ち、すっかり空回りしていた。そんな時、巡回指導で、実習指導者と大学の先生に「実習ノートには事実を書いて、それから思ったこと考えたこと、あなた自身を出して欲しい。この実習は相談援助実習であるけれど、ボランティアに来たつもりで。みんながこうやって普通に暮

らしていることを知ってほしい。」と言葉をかけられた。率直な思いで実習に取り組むと、今度は楽しさも感じられるようになった。一年前の私と、来歩ハウスで働くようになった半年前の私を、一度に重ねて思い出す六ヶ月目の日である。(丸山)



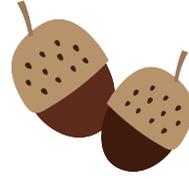
誕生日会、みんなで祝い

マノン・ド・歩人 写真館

みんなの笑顔に日々感謝！



Kさん
58回目の誕生日
デイサービス つくしの家にて



Hさん
歩人に来て初めての
お好み焼きパーティにて



MさんTさん
残念ながら今年は台風で中止。。
2年前のひまわり号にて仲良しな
二人。

※ひまわり号とは JR グループ各社で
運行されているしょうがいしゃ専用
団体臨時列車のこと。

とれいる

新鮮な体験

4月からとれいるの責任者として働いています長田です。今年の夏は、記録に残るような酷暑でしたが、入居者さん全員、暑さに負けず元気に過ごせました。とれいるの入居者さん全員が参加したBBQイベントを、9月16日に開催しました。この日も暑い日でしたが、昭和記念公園のBBQガーデンは、学生さんやファミリーで大賑わい。とれいるのメンバーも負けず劣らずの大賑わいで、美味しいお肉と焼きそば、Kさんが内緒で持ってきてくれた新鮮野菜と大きなエ



ビ！開放感のある場所で気心の知れた仲間達と食べるBBQは格別でした。今度は、誕生日会かな？旅行かな？クリスマス会かな？一つひとつのイベントが楽しみで、新鮮な体験になっています。(長田)

すうえる

趣味を活かせる仕事？！

秋というものは人肌恋しくなってくる時期だなと最近感じています。さて、最近ショックが大きすぎ

ることがありました。それは私の好きなアイドルグループ[乃木坂46]の[西野七瀬]の卒業発表でした。乃木坂？たかがアイドルの卒業発表？と思う方もいらっしゃるかもしれませんが。私にとってはアイドルとはなくてはならない存在なのです。アイドル好きを公表してから利用者さんからも「アイドル好きの松原さん！」と呼んでもらったりしました。改めて趣味を活かせるこの仕事の魅力に気づきました。(松原)

誰もが集えるみんなの居場所（10：30～18：30 日祝休み）
日中一時支援事業（15：30～土日祝休み）

たまりば宙（そら）Tel/Fax 042-843-0443

挑戦者求ム！

うだるような暑さが少し落ち着いた頃、宙では「うちわDEワッショイ」が流行しました。ルールは簡単！うちわに万歩計を付け、1分間に何回振る事ができるかを競います。日中一時のみんなで競うだけでなく、どうすれば速くうちわを振ることができるか、研究を重ねました。何パターンか、いい方法がみつかっています。それぞれのやり方に相性があり、また、日によっても違うのです。日中一時のみんなとスタッフ、宙のお客さん、お迎えのお母さん等々、たくさんの方が挑戦して下さいます。宙の近くにいらした時は、皆様、ぜひうちわを振ってみて下さい。お時間はとらせません。たった1分でいいのです。現在の1位は390回。挑戦者求ム！！（杉本）



「うちわDEワッショイ」
最高記録保持者のSさん

「ダウン症支援セミナー」 に参加してきました。

2018年8月19日、日本橋で開催された、第3回ダウン症支援セミナー（公益財団法人日本ダウン症協会主催）に参加してきました。福祉の仕事を始めた頃、私にとってダウン症の人たちは平和主義で人類の進化系。ダウン症の人だけならひょっとして戦争は起こらないのではないかな？と思うほどでした。それが、グループホームの所属になり、Kさんの「老い」を目の当たりにし、イメージが変わりました。認知症の疑いと診断されたものの、はっきりとした治療法もなく、認知症に使われている薬が効かず、症状が日々変化していく毎日。なぜ？どうして？とつらかった日々を思い出しました。

今回セミナーに参加しようと思ったきっかけは「成人期の問題行動」に関するテーマ、要するに老いでした。ダウン症専門医の講師の先生から特性を講義して頂きました。ダウン症の人は、もともとの遺伝子レベルでアルツハイマー病の発症率が健常者に比べて1.5倍あること、それでもダウン症のだれもがアルツハイマー病になるとは限らず、今だに未知であり研究者も少なく、はっきりした統計も取れていない状態であること、小児科から成人への医療への移行が充実しておらず、成人したダウン症の方を診てくれる専門医が少ないという現実があるということ、薬に敏感で思うように服薬で効果が得られないことなど、私が触れてきたことが間違いではなかった、手探りでしかやりようがない現実は今後も続けて良いんだと自信につながり、「ほっ」としました。それだけでもセミナーに参加した甲斐があったと思いました。

続けて、ダウン症と老いについても大筋でKさんが辿った道そのもので、何度も「うんうん」とうなずけました。1つだけ後悔があります。Kさんがいままで誇りをもってやっていた仕事ができなくなった時、体調の変化からかもしれないとは微塵も思いませんでした。ダウン症の方には様々な合併症があり、甲状腺の悪化で今までできていたことが急にできなくなることがあるそうです。知りませんでした。これは、ダウン症の方のみならず、発信できないしょうがいをもつ方々にとって同じ症状になりかねないと思いました。急な変化がある時は健康診断を第一にと実行していきたいと思いました。ダウン症に特化してセミナーでしたが事例の検証は様々なしょうがいを持つ方々に応用できると思いました。

Kさんに長生き（寿命を全う）してもらうために、これから先、新たな直面に出会うと思います。その度、右往左往、四苦八苦して皆でやっていっていいんだと、気持ちを新たにできました。また来年も参加しようと思います。（小野）

全体研修に参加しました

9/29

午前中のテーマは虐待についてでしたが、私は福祉の仕事に就いてまもなく9年目になります。この問題についての研修も数々学んできましたが、いつも考えさせられる問題です。私は研修参加が大好きです。スキルアップや知識等を得られるだけでなく、日々の仕事に就いてると初心を忘れ、業務対応している自分に気づき、振り返ることができるからです。また、午後の研修の様にグループでディスカッションすることで、他の職員の普段知ることが出来ない一面や考えを観察することも刺激となり、今後の意欲となり、前向きな気持ちを取り戻せるからです。他部署の職員の顔も知ることが出来、参加出来て良かったです。(大島)

初めて全体研修に参加してまず感じたことは、全体の仲が良くて明るい職場なんだな、ということです。グループ発表後に「ワハハッ」となる雰囲気がかいゆうのカラーなのだなと感じました。

研修では普段自分の行っている支援を考えさせられ、また他の意見も聞けて、考えを改めることもありました。今、研修が終わって少し経ってからこの原稿を書いています。研修後の支援では“利用者さん主体の支援”をすごく意識するようになりました。今までも利用者さんのことを考えながら支援をしてきましたが、支援者の都合が多く影響した支援だったなど反省しています。利用者さんの意思を汲み取り、できる限りの意思疎通をし楽しんでいただける支援をしていきたいと思います。(寺島)



* 今日一品

ガパオ風ライス

(with 角切りポテトサラダ)

材料

・豚ひき肉	400g	●醤油・みりん・ソース	大さじ1と1/2
・ピーマン	2個	●オイスターソース	大さじ2と1/2
・パプリカ	1個	●水	大さじ1と1/2
・玉ねぎ	1/2個		
・にんにくチューブ	適量		
・卵	4個		

作り方

- ① フライパンで挽肉を炒める。色が変わってきたら、にんにく・細かく切ったピーマンとパプリカを入れよく炒める。
- ② ●を全部入れて少し煮詰めるような感じで炒める。
- ③ フライパンに少し多めの油をひき、まわりが少しカリカリになるような目玉焼きをつくり、②と③をご飯の上のせたら完成！



みんなで一緒に作ると楽しくて美味しいね！

- ・ナンプラーを使わないので、子どもも美味しく食べられます！
- ・野菜は、子ども達が調理しやすい(わかりやすい)よう、全て角切り。大きかったり小さかったりする野菜たちが、異なった触感になり、それがまたGOOD！



【献立メモ】

- ☆野菜のビタミン、肉や卵のたんぱく質もたくさん摂れて、育ち盛りにぴったりの献立です。
- ☆もう一品付けるとしたら、わかめ、ゴマ、ネギのたっぷり入った同じアジアの韓国スープ。主菜にやや不足したミネラルもたっぷり摂れます。

くじらっこ 長田さんによるレシピ

私たちは 40 億年の生命の歴史の途中

「かいゆう人語」に記事を頼まれた。何を書こう？
かいゆうのパンフを見ると「地域で自分らしく生きる」と書いてある。「生きる」ではなく「活きる」だ。漢字が違う。どう違うのか、岩波の国語辞典で引いてみた。字が小さくて、もうすぐ73歳の近眼には厳しいが、頑張って読んでみた。駄目だ、読みづらい。ページを拡大コピーして。まずは、①生物として活動できる状態にある。命を保つということ、例文は「百歳まで生きる」とある。次に②命があるような働きをする。そのものの価値を発揮する。例文には「生き生きする」との記述があった。そうだ！かいゆうは、「生きる」から「活きる」に向けて歩いて来て「地域で自分らしく、自分の価値を発揮して活きる」ところを目標にしているのだ！と考えついてうれしくなった。

私たちは生まれた瞬間から命を持ってそこに居る。それがその命の価値だ。科学者によると地球誕生から6億年して地球に生命が誕生した。そして、今生まれるすべての命は、生命誕生の40億年前からの命の連続の中で生みだされた命なのだそうだ。その命の不思議を考えれば、どの命も大事な価値を持っているはず。そのことは、誰もが知っているはず。

ず。教えられなくとも「命は大切」なものだ。40億年かけて人間社会が生まれ、その人間社会に「この時、この場所に生まれた」その必然・不思議を感じよう。

でも、私たちは、その不思議を実感できる生き方をしているだろうか？「世の中の役に立つように」と言われ育っているのではないだろうか。「役に立たないやつ」と言われていないだろうか？でも「世の中の役に立つってどういうこと？」「役に立っていないってどういうこと？」本当は誰にもわからない。「役に立つか立たないか」で考えるのは止めよう。「人に迷惑をかけるくらいなら生きていたくない」なんて言っていないだろうか？人はかならず誰かに支えられて生きている、それが迷惑をかけていることになるなら、迷惑をかけずに生きられる人はどこにも居ないのだ。決してそんな言葉を発してはいけない。

今思うこと、それは、ただ、自分のままで幸せになること。それが人にも幸せを運ぶ。そんな生き方を探し続けて命を活かす。そのために「かいゆう」があるということ。(監事 中川瑞代)

新しくじらハウス 2019年2月スタート!

- 3階 ミラハウス
- 2階 はじめの一步ハウス
くじらハウス
エプシロン
- 1階 ショートステイ「おにぎり」



【今後の予定】

2019年
1/12(土) オープニングセレモニー

2月 新グループホーム「ミラハウス」
ショートステイ「おにぎり」スタート

よろしく
お願いします!



たまりば宙の催し

おせち料理 を作ろう!



と き 12/1(土) 14時~
ところ たまりば宙
参加費 500円
持ち物 エプロン・三角布
手拭き
フライパン(24~25cm)
又は玉子焼き器・巻きす
要予約 042-843-0443

伊達巻の作り方を学び、もう一品試食します。

見てね!



facebook ホームページ

★職員の異動★ 退職

妹尾昌美さん 8月31日
白濱英子さん 10月1日

編集後記「かいゆうだより」編集員はエプシロンに居候している。昨年暮れに仮事務所に引っ越したが、ちょうど一年後に新しくじらハウスに戻ることに。工事の進み具合を見に時々くじらハウスの前を通ったりして楽しみにしてきた。今、その全貌があらわになり、完成間近なことを周囲に知らせている。でも仮事務所の四階から眺める夕日はステキだったし、居心地もよかったので引っ越しはちよいと寂しい気も。秋だからかしら。(な)